

令和元年度埼玉県NPO活動サポート事業 キンビール(株)埼玉支社地産地消・食育応援事業

助成事業 みんなの見沼田んぼ活用事業

助成団体 特定非営利活動法人のらんど

事業内容 見沼田んぼで、見沼田んぼ保全、障害福祉、貧困支援等の団体が協力して田畑を活用し、米や野菜を栽培。様々な人が集まり活躍する場を作る。



成果と展開

田んぼ保全団体から、技術や地域での関係づくりなど、協力を得ながら田畑を管理。毎月1回の様々な人が集まる作業日のほか、平日の作業には貧困支援団体や障害福祉施設の利用者が働く場として活用。

事業の目的(問題意識・課題・対策等)

課題

- ・見沼田んぼを管理する農業者やNPO法人の高齢化。
- ・分野や支援対象にとらわれない地域交流の場が少ない。
- ・障害や貧困など当事者が活躍する場の選択肢を多様化。



目的

- ・遊休農地の増えている見沼田んぼに、障害福祉、貧困、見沼田んぼ保全関連団体等が協力して、田畑を活用し、米や野菜を栽培。さまざまな参加者が見沼田んぼで農的活動を楽しみとともに働き、見沼田んぼの環境やそこで自ら作った作物のありがたみを知る。

1 米づくりと里芋づくりの作業日開催

- ・毎月第1土曜日に開催
- ・見沼保全じゃぶじゃぶラボの技術協力
- ・一般市民、関係団体、会員等に呼びかけ

2 田畑の管理

- ・月一回の作業日では間に合わない日常管理
- ・障害福祉施設、貧困支援団体、DV被害支援団体等に呼びかけ
- ・見沼保全じゃぶじゃぶラボの協力による地域との関係づくり

3 収穫を祝う会の開催

- ・11月9日開催。見沼保全じゃぶじゃぶラボと共同で。

事業の成果

1 米づくりと里芋づくりの作業日開催



- 6月～11月まで毎月1回。12名～44名の参加。
- チラシ毎回200部、会報誌毎月200部、法人Facebook、ツイッター、プロジェクト専用WEBサイト、口コミで、一般市民、関連団体(26団体)、地域住民に広報。
- 参加者は、0歳から70代まで多様な年齢層、4か国の国籍、さまざまな所属グループ(保育園・幼稚園、学校、学習支援塾、勤務先、利用団体)
- 見沼保全じゃぶじゃぶラボから技術協力を受けたり、人数の必要な作業は一緒に行ったりと協働。
- 畑は里芋だけでなく、サツマイモ、大根なども栽培

事業の成果

2 田畑の管理



- 日常管理(5月~2月、月2~12日)、見回り(週2~5日)。
- 日常管理は除草、耕うん、土寄せ、マルチ張り、間引き、防虫ネット張り、収穫後片づけ、緑肥播種、肥料入れ等。
- 地域とのつながり作り(土地利用、地域他団体との連携)。
- NPO法人ほっとプラス、地域活動支援センター農(あぐり)の利用者等のべ12名が有償で作業に参加。

3 収穫を祝う会の開催



- 見沼保全じゃぶじゃぶラボと共同で開催。
- 110名以上の参加。

1 会員、サポートメンバー募集

- ・個人会員、企業会員を集めて活動資金に。地域住民をはじめ、首都圏における見沼の認知をすすめる。
- ・会費を払って作業に参加する会員のほか、除草や軽作業のボランティア、チラシやWEB更新などのプロボノ、生産した野菜の購入等、様々な方法でのサポートメンバーを募集。そのための仕組みづくり。
- ・プロジェクトWEBサイトの更新(会費の明記、さまざまなサポート方法の記載)

2 体験客の受け入れ

- ・田植えや農作業などの体験プログラムを作り、国内外の観光客を受け入れる。

3 見沼保全団体との協働継続

- ・見沼保全じゃぶじゃぶラボとの連携を通して、技術面や地域のつながりを強化。

4 貧困支援団体等との連携強化

- ・さまざまな働き手の確保。そのための仕事の整備。

